平成２６年度認定（№７４）

農 業 名 人

ナデシコ栽培名人　　小林（こばやし）　淳一（じゅんいち）

昭和２７年生まれ　飯島町在住

ナデシコのしなやかさに惚れて

昭和４６年、上伊那農業高等学校３年生の時に進学コースを選んだが、先進地視察をした際にカーネーション栽培農家に行った。そのことがきっかけで３年生の１月から、岡谷市のカーネーション農家へ研修に入り、その年１０月には実家へ戻ってカーネーションの栽培を始めた。当時実家では、父親が桃や２０世紀梨の果樹園と、農閑期には石割りの仕事をしていたが、現在は、花卉のみとなっている。その後、今から１０年くらい前に、カーネーション栽培の仲間の中にナデシコを栽培している人がおり、しっかりした茎の花とは違う、何とも言えないナデシコの花のしなやかさに感動し惚れてしまった。それがナデシコを栽培するきっかけとなった。元々周りでもナデシコ栽培は行われていたが、ブームが去った頃から栽培を始めた。

現在の経営は、合計６９アールのハウスで年間１００万本（種類によって花が幅をとるものがあるため昨年は９０万本）のナデシコを、家族（妻、子供夫婦と娘）の５人と、常時３人の方を頼んで作業している。最盛期の５月は１日２万本を出荷、現在２月は１日おきに収穫し、およそ４千本出荷している。出荷先は、東京（７社）・大阪・名古屋・北陸（新潟）方面で、市場の担当が２０～３０代の年齢ということもあり、販売部門は息子に任せ、自分は栽培部門を担当している。

栽培のうえでのこだわりは、化学肥料は一切使わない有機栽培。本来土を消毒しないと虫が付き枯れてしまうが、消毒もやめたいと考えていた。農薬は、煙霧機を取り入れることによって、空中に浮遊する時間が長いため、農薬の量・回数が減らせ、作業をしている人体にも良い。今年５年目となるが、３年間は苦しい生活だった。今は土にはミミズが多くなり、土の状態がよくなってきている証拠と思うが、その反面、モグラが来て、その穴をネズミが通るということになってしまって困っている。

ナデシコは栽培が難しいため全国的にも栽培している人が少なく仲間ができにくい。そして、栽培をする農家が減れば購入苗の供給も減る。そのため苗を自分で作ることになるが、逆に新品種も生まれる。現在１０種類のナデシコを栽培しているが、うち３種類はオリジナルである。今は次の世代に繋がっていってくれることを願っている。